

ティキコを遣わして

2024年2月18日

エペソ人への手紙 6章21～24節
コロサイ人への手紙 4章1～9節

序：エペソ書は獄中書簡のひとつ（エペソ、ピリピ、コロサイ）
テモテⅡは、パウロの絶筆
エペソ書のテーマは教会論
” をとりあげたのは「聖書の教会観」を持つため
” の講解は、今日が最終回

I. ティキコを派遣 21～22節
使徒 20・3～4 エペソからギリシャ～マケドニア経由で帰還計画時
パウロの同行者のひとり

コロサイ 4・7～8 エペソ 6・21～22と並行箇所

テモテⅡ 4・12 ティキコをエペソに派遣

テトス 3・12 クレタにいるテトスのもとに派遣（候補の一人）

(1) ティキコへの評価

①愛する兄弟

②主にある忠実な奉仕者（パウロとは同労者、師弟・主従関係）

パウロの代弁者、使節として適任（パウロの信頼、期待、意思疎通がスムーズ）

(2) 派遣の目的

パウロの様子や何をしているかを分かってもらうため

” 知って、聖徒らが励ましを受けるため

パウロの口、顔として、手紙を携え、教えと意思を伝える

パウロの身を案じるエペソの聖徒たちに情報をもたらし、心配を和らげる

3・13 パウロの受けている迫害ゆえに落胆しないように

パウロはエペソの教会に初めから関わってきた、エペソの聖徒たちもパウロの現状を知りたいと思っている

聖徒の心と心、教会と教会をつなぐ通信：大きな励まし、恵み、主への賛美
感謝

Ⅱ. 祝祷

23～24節

他の手紙の祝祷との違い

- (1) 相手が「あなたがた」なく「兄弟たち」
「主キリストを愛するすべての人」
- (2) 二段がまえ
- (3) 「恵みと平安」でなく、「平安と愛」「恵み」

∴ 回し読みの手紙、パウロの殉教の日が迫ってきていた時期

父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちに、
信仰にともなう平安と愛がありますように

朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛するすべての人に
恵みがありますように

不朽の愛 = 霊的、永遠の愛（神の愛→神を愛する者の神への愛）

Ⅲ. 結び

- (1) 聖徒間、教会間で、近況、現状、様子を知らせ合うことは主にある交わりにおいて、重要不可欠
週報、手紙などの交換、送付は、祈り必要を伝えることになる
知らせる、知らされることなくして、必要な情報を得ることはできない
霊的・親密な交わりは成立しない
事務的な通信のみか、一言そえる
- (2) 伝える人、派遣する人はふさわしい人を選ぶ
- (3) 聖徒たち、教会間で、互いに主にある祝福を祈ることはクライマックスである
礼拝の最後の祝祷は、再び世に、馳せ場に遣わされて行く私たちに対して
主なる神からの激励である